

出張から帰ってきたらコロナ陽性に

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が第5類の分類に移行して久しいですが、季節を問わず罹患者がいます。

季節性のインフルエンザと同じ扱いになったとはいえ、よく観察すると現れる症状は似て非なるもののようです。

70歳代男性の事例を。

出張から帰ってきて4日目、朝から微熱がありました。

疲れが出てきたのだろうと思っていたら、夜には38℃を超えた状態に。

これはただの疲れではないと、コロナの検査キットで検査したところ陽性。翌早朝午前4時ごろには39℃に。

しかし、頭痛もなければ、鼻水・鼻づまり、咳の一つも出ない。熱発だけです。

主治医としている知り合いの医師に陽性になったことを伝えたところ、「もともと健康体なので抗コロナ薬を使う必要はない。かぜグスリを飲んで休んでください。そして、高熱で体力を消耗しないようにしましょう」とのこと。

インフルエンザのように、寒気と発熱を繰り返す往来寒熱はないし、汗ばんでいたのに漢方薬と牛黄製剤を服用。しかし38℃以下にはなかなか下がらない。「ウイルスと闘っているのだからしょうがない。高熱が出ると尿道に影響が出てくるのはいつものこと。気張ってもなかなか出てこない。これも熱のためだから、熱が下がれば自然と治る」といい聞かされました。発汗が収まってきたので、別の漢方薬に替えることに。

店頭から「にんにちほ」

第156回

高熱による発汗でスネの引きつれも
新型コロナウイルスに感染した人の対処
まだまだ感染者が後を絶たない、新型コロナウイルス感染症。状態に合わせて、適切な対処をしていくことで回復した例を、ご紹介しましょう。



3日目には平熱に下がる

コロナ陽性2日目は、あきらめて寝ていました。「コホン」と単発の咳は出るものの痰は透明で、肺がコロナウイルスでやられているという感じはありません。

3時間ごとに3回39℃近くまで発熱したものの、その後は38℃までしか上がらず、コロナ陽性3日目には平熱に下がりました。

喉の痛みがあったのでまた別の漢方薬を飲むと、痛みは和らぎます。回復が早く、平熱に下がり、「さあ仕事ができるぞ、でもその前にコロナの検査しよう」と検査したところ、まだ陽性のまま。

あと1日はおとなしくしておくことにしました。体力を回復させるだけですから。

もう一つ大切なことをお伝えします。筋肉が少なく、保水能力の乏しい人は、高熱による発汗から、スネの引きつれ、こむら返りが起こることがあります。そういう理屈を知らない人には心配要素となるでしょうが、心配無用ですのでご安心を。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「からだを温める生活を心がけましょう」

